

(別紙3-2) 重点戦略②「多業種の連携による地域特性を生かしたビジネスモデル及び商品開発への取組」意見交換結果(概要)

方向性・視点

- ・利用する側のニーズと提供する側の考えやこだわりをそれぞれ聞いた上、魅力的なコンテンツを作っていきたい
- ・旭川市内の観光地だけでなく、近郊であれば、層雲峡、富良野、美瑛、留萌がある。その他道北、道東、全道と地域連携を考えた場合、その中心部にある空港がある旭川を核とした各コンテンツの開発の可能性は無数に広がる。こういった今後のダイナミックな展開を図っていくためには空港機能のテコ入れが不可欠
- ・市内のほか、道北や道内の農産物、3つの海からの海産物等が集まる旭川の食の強みと連動した観光・宿泊を進め、「健康で豊かな生活ができるこのまちに住みたい。」につなげる
- ・地元には、多分野における多くの人、技術等の魅力に触れて、職業観や社会観を学ぶ場を設ける必要がある。
- ・子供達に地元の産業を直接教えることができる先生が地元産業に触れ、学び、子供達と地元の技術や職業との距離を近づけることが必要

地域資源

- ・旭川の食品のクオリティと小売業と卸売業双方の流通機能が持つ情報等
- ・「またおいでください。」というおもてなしの心が重要
- ・人口30万人を超える中核市で、30分も車で走れば自然や農村が広がる豊かな都市は全国をみても珍しい
- ・優秀な農業者がしっかりと手をかけた商品を農協等でもっと価値を高めていくような環境づくり、もっと地域の中で消費、活用する仕組みが必要

事業ベース

- ・おいしい食事というのは医療、介護にとっても重要であり、新鮮な食材の提供を受けること等で異業種との連携を図りたい
- ・病気等により、介護が必要となっている方々に旅行を提供したいと考えていることから、福祉・医療と旅行・観光関係との連携も今後必要
- ・医療はどの分野ともコラボ可能だと思う、例えば、食と健康、健康と美容、運動、フィットネス、サプリメント等
- ・多業種連携で何ができるかでは、海が無くても海産物がおいしい旭川ということから、市場などの近くに農海産と菓子の朝市を設ける
※空港等に入ってくる観光客にこの地の非常に品質の高い農産物、また、道北をはじめとして全道から品質の高い食材が集まる物流の拠点性を生かして、旨いものを「食べる」、「買える」、「遊べる」活気、魅力がある朝市を市内にあれば、観光のリピーター、最終的には移住につながる
※インバウンドの観光客の滞留時間をどう稼ぐかということでは、旭山動物園に次ぐ新たなメニューとして朝市は面白いのではないかと
- ・極寒の旭川の最も寒い時期に、最も寒い場所で「今年の最も寒い本」を紹介するイベント
- ・木工製品で有名な旭川であるが、木材と金属を融合させたデザイン性のある製品の開発、その他、染め物と鉄を融合させた製品の開発などを通し、それぞれが保有する高い技術を融合させた何かを生み出すことは面白い